

TOYOBO NOW

第161期 中間報告書

2018年4月1日～2018年9月30日

CONTENTS

株主のみなさまへ

事業別業績の概要

TOPICS

- スポーツ用途の生体情報計測用ウェアの開発に向け東海大学と共同研究を開始
- 中国で臨床検査装置の販売を開始
- 伝統的なガラス工芸を折り紙で表現
江戸切子模様の「オリエステルおりがみ®」を新発売!

業績ハイライト

会社の概要・株式の状況

株主メモ

株主のみなさまへ

株主のみなさまには、平素から格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

はじめに、本年9月6日に当社敦賀事業所第二にて発生しました火災事故により、近隣住民の皆様、関係省庁ほか、関係者の皆様に多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますことを心からお詫び申し上げます。

現在、原因究明、防災対策を進めており、早期の復旧に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

当第2四半期連結累計期間（以下、「当期間」といいます。）における当社グループを取り巻く事業環境は、世界経済において、中国ではインフラ投資が減少し景気は減速しましたが、米国では設備投資が堅調に推移し個人消費も好調で、良好な景況感が続きました。また、ユーロ圏では堅調な内需を背景に緩やかに

景気は拡大しました。一方、国内では、災害の影響でインバウンド需要は減速したものの、設備投資は増加基調にあり、景気は緩やかな回復を継続しました。しかしながら、米中の貿易摩擦の影響が国内におよぶことが危惧されることに加えて、原燃料価格は高値水準を継続しており、事業環境は依然不透明感があります。

このような環境のもと、当社グループは、「環境、ヘルスケア、高機能で、社会に貢献する価値を、創りつづけるカテゴリー・リーダー」をめざし、特長のある製品を、国内外の市場へ展開しています。当期間においては、2018年中期経営計画で掲げた「各事業に適した事業運営の徹底」、「中長期新商品・新事業開発の強化」、「事業基盤の強化」の3つの重点施策に取り組んでまいりました。

成長ドライバーである工業用フィルムにおいては、液晶偏光子保護フィルムとして展開する「コスモシャインSRF®」およびセラミックコンデンサー用離型フィルムを軸に販売を拡大しました。これらの製品は、計画どおり販売を伸ばしましたが、エアバッグ用基布、包装用フィルムなどにおいては、原燃料価格高騰の影響を受けました。

電子ペーパーディスプレイなどに使われる高耐熱性ポリイミドフィルム「ゼノマックス®」においては、新工場が完成し、事業拡大に向けた準備が整いました。

ヘルスケアにおいては、臨床検査装置である遺伝子検査を自動で行う「GENECUBE®」および尿中の有形成分を分析する「USCANNER® (E)」を、新たに中国向けの販売を開始しました。

また、「事業基盤の強化」の取組みの一つとして、4月に発足した「カエルプロジェクト」において、仕事の仕方、会社の制度および意識を変えるべく、精力的に活動を進めました。

なお、当期間において、火災による固定資産の滅失および操業休止期間中の固定費等の損失21億円を火災による損失として特別損失に計上しました。



代表取締役社長

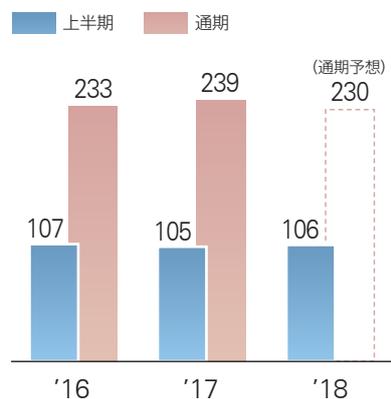
梅原誠慈

161中間期 業績ハイライト

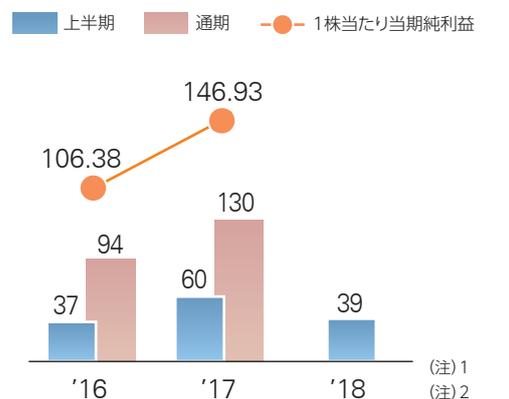
売上高 (億円)



営業利益 (億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)・1株当たり当期純利益 (円)



(注)1
(注)2

以上の結果、当期間の売上高は前年同期比33億円(2.1%)増の1,647億円となり、営業利益は同1億円(0.9%)増の106億円、経常利益は同3億円(3.7%)減の87億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同21億円(35.2%)減の39億円となりました。

通期業績の見通し

通期業績予想につきましては、工業用フィルムなどの販売の拡大が見込まれるものの、原燃料価格高騰の影響や火災の影響などを踏まえ、営業利益および経常利益を見直し、売上高3,400億円(前期比89億円増)、営業利益230億円(前期比9億円減)、経常利益180億円(24億円減)といたしました。しかしながら、この火災による損失の総額については、現時点で不確定要素が多く、合理的に見積もることは困難な状況でございます。また、適切に損害保険を付しておりますが、保険金の受取額は未確定であり、確定までには時間を要する見込みです。

以上のことから、親会社株主に帰属する当期純利益の予想を未定とさせていただきます。

配当について

当社は、安定的な配当の継続を基本としつつ、持続性のある利益水準、将来投資のための内部留保、財務体質の改善などを総合的に勘案のうえ、総還元性向30%を目安として、自己株式の取得を含めた株主還元を行ってまいります。

上記方針を踏まえ、中間配当につきましては見送らせていただきましたが、期末配当は、現時点において1株当たり40円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

伝統的なガラス工芸を折り紙で表現 江戸切子模様の「オリエステルおりがみ®」を新発売!

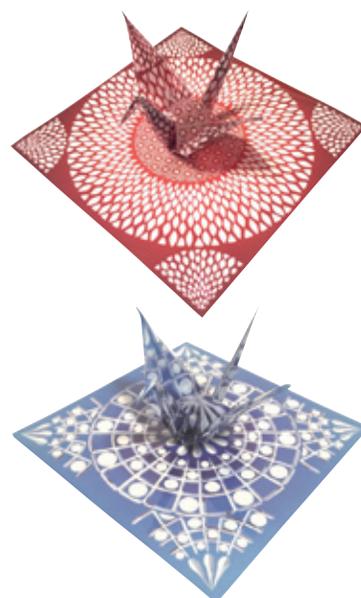
当社は、「江戸切子の店 華硝(はなしょう)」とコラボレーションした「オリエステルおりがみ®」の新製品を発売しました。江戸切子とは、江戸時代末期に江戸で始まった伝統的なガラス工芸です。日本を代表する江戸切子ブランド「江戸切子の店 華硝」が考案した「米つなぎ®」「玉市松™」などのオリジナル紋様や、伝統的な江戸切子模様を配した「オリエステルおりがみ®」を「江戸切子の店 華硝」の店舗やamazonなどのショッピングサイトで販売しています。

オリエステルについては、こちらのホームページでも詳しく紹介しています。是非ご覧ください。

<http://origami.olyester.net/>



「米つなぎ®」「玉市松™」は「江戸切子の店 華硝」の登録商標または商標です。



総資産・自己資本・自己資本比率



有利子負債・D/Eレシオ



(注)1 2017年10月1日を効力発生日として、普通株式10株を1株の割合で株式併合を行ったため、2016年度(159期)の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり当期純利益を算定しています。

(注)2 2018年度通期予想のうち、親会社株主に帰属する当期純利益および1株当たり当期純利益については、本報告書作成時において未定としています。

(注)3 『「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を2018年度の期首から適用しており、2017年度の経営指標については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で表示しています。



事業別業績の概要



Films & Functional Polymers

フィルム・機能樹脂事業

フィルム事業では、包装用フィルムは、堅調な需要に支えられ売上を伸ばしましたが、原料価格高騰の影響を受けました。工業用フィルムは、液晶偏光子保護フィルムとして展開する「コスモシャインSRF®」が海外の液晶テレビ用途に販売を拡大し、また、セラミックコンデンサー用離型フィルムが電子部品関連用途を中心に好調に推移しました。

機能樹脂事業では、エンジニアリングプラスチックは、国内・海外ともに自動車用途の販売を伸ばしましたが、原料価格高騰の影響を受けました。工業用接着剤「バイロン®」は、電子材料を中心とした接着用途の販売が低調で苦戦しました。

売上高

777 億円

6.2% 増
(前年同期比)

営業利益

69 億円



Industrial Materials

産業マテリアル事業

エアバッグ用基布は、海外顧客への販売を拡大しましたが、原料価格高騰の影響を受けました。スーパー繊維事業では、「ツヌーガ®」は、手袋用途を中心に販売を伸ばしましたが、「イザナス®」および「ザイロン®」は苦戦しました。

生活・産業資材事業では、バッグフィルター用PPS繊維「プロコン®」は中国の環境規制が強化されるなか、販売が拡大し、機能性クッション材「プレスエアー®」は寝装用途が堅調に推移しました。一方、衛材用途のポリエステル短繊維および長繊維不織布スパンボンドは、原料価格高騰の影響を受け苦戦しました。

売上高

327 億円

7.1% 増
(前年同期比)

営業利益

19 億円

(営業利益: 消去 全社13億円)



Healthcare

ヘルスケア事業

バイオ・メディカル事業では、医薬品製造受託事業はFDAの承認取得が遅れたことや新規案件の獲得に苦戦しましたが、診断薬用酵素が海外への販売を大幅に伸ばしました。

機能膜・環境事業では、海水淡水化用逆浸透膜の交換膜受注が遅れ苦戦しましたが、溶剤を回収するVOC処理装置を中心に販売を拡大しました。

売上高

159 億円

2.4% 減
(前年同期比)

営業利益

19 億円



Textiles & Trading

繊維・商事事業

中東向け特化生地は、市況の悪化により数量が減少し、ユニフォーム用途は、販売が伸び悩みましたが、インナー用途は堅調に推移し、スポーツ衣料製品は回復しました。

売上高

317 億円

6.0% 減
(前年同期比)

営業利益

1 億円



Others

不動産事業／その他事業

不動産、エンジニアリング、情報処理サービス、物流サービス等のインフラ事業は、それぞれ概ね計画どおりに推移しました。

売上高

67 億円

12.9% 減
(前年同期比)

営業利益

11 億円

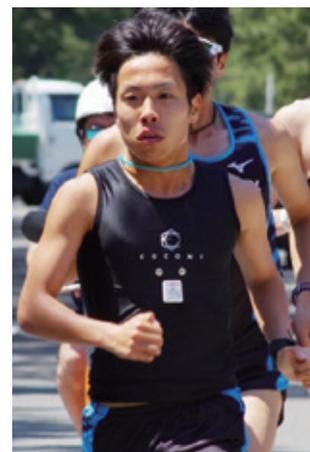
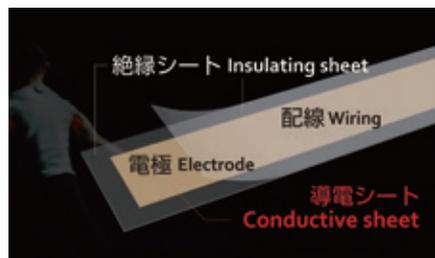
四半期連結貸借対照表の要旨 (単位:百万円)

科目	当上半期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2018年3月31日現在)	科目	当上半期末 (2018年9月30日現在)	前期末 (2018年3月31日現在)
資産の部			負債の部		
流動資産	191,235	186,571	流動負債	125,959	125,110
固定資産	262,434	258,924	固定負債	139,953	135,870
有形固定資産	207,495	203,451	負債合計	265,912	260,980
無形固定資産	3,752	3,985	純資産の部		
投資その他の資産	51,186	51,489	株主資本	139,920	139,676
資産合計	453,669	445,495	その他の包括利益累計額	42,552	40,885
			非支配株主持分	5,285	3,954
			純資産合計	187,757	184,515
			負債・純資産合計	453,669	445,495

スポーツ用途の生体情報計測用ウェアの開発に向け 東海大学と共同研究を開始

当社は、東海大学（神奈川県平塚市）と、スポーツ分野向け生体情報計測用ウェア「スマートセンシングウェア[®]」に関する共同研究契約を締結しました。当社のフィルム状導電素材「COCOMI[®]」を使用した「スマートセンシングウェア[®]」により、トレーニングや試合中に収集した心拍数など着用者の生体情報を計測し、効果的なトレーニングをサポートするスポーツウェアを開発します。

当社は、共同研究で得られた知見をもとに各競技に適した「スマートセンシングウェア[®]」の開発を進め、トップアスリート向けのスポーツウェアとして2019年度中の製品化をめざします。



「COCOMI[®]」を使った「スマートセンシングウェア[®]」着用は東海大学 陸上競技部 郡司陽大 選手



全自動遺伝子解析装置「GENECUBE[®]」



尿中有形成分分析装置「USCANNER[®](E)」

中国で臨床検査装置の販売を開始

当社は、本年8月より、中華人民共和国（以下、中国）の医療機関向け臨床検査装置として、全自動遺伝子解析装置「GENECUBE[®]」と尿中有形成分分析装置「USCANNER[®](E)」の販売を開始しました。

「GENECUBE[®]」は、遺伝子の抽出から増幅、検出までの操作を全て自動で行うことができる遺伝子解析装置で、従来の手法で数時間かかっていた生体試料の遺伝子検査を最短30分で自動的に実施し、感染症などの病原因子を特定します。

「USCANNER[®](E)」は、腎臓疾患や泌尿器疾患の診断に不可欠な、尿中の赤血球や白血球などの有形成分を分析する装置で、熟練した検査技師が長時間かけて行っていた一連の作業を全自動化することで、短時間でばらつきのない測定結果の取得に貢献します。

近年、中国では医療水準向上の取組みが加速していることから、今後、このような臨床検査装置の需要がさらに高まっていくものと見込んでいます。

四半期連結損益計算書の要旨 (単位:百万円)

科目	当上半期累計 (自 2018年4月 1日 至 2018年9月30日)
売上高	164,728
売上原価	124,676
売上総利益	40,052
販売費及び一般管理費	29,451
営業利益	10,601
営業外収益	1,441
営業外費用	3,303
経常利益	8,738
特別利益	571
特別損失	3,683
税金等調整前四半期純利益	5,626
法人税等	1,759
四半期純利益	3,867
非支配株主に帰属する四半期純損失	50
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,918

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位:百万円)

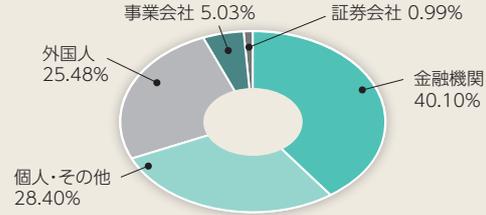
科目	当上半期累計 (自 2018年4月 1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,228
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,996
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,919
現金及び現金同等物に係る換算差額	43
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,806
現金及び現金同等物の期首残高	25,857
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	256
現金及び現金同等物の四半期末残高	24,306

(記載金額は、百万円未満を四捨五入して表示しております。)

社名 東洋紡株式会社
 英文社名 TOYOBO CO., LTD.
 証券コード 3101
 創立 1882年(明治15年)5月3日
 設立 1914年(大正3年)6月26日
 資本金 51,730,003,166円
 本社 大阪市北区堂島浜二丁目2番8号
 (代表 06-6348-3111)
 東京支社 東京都中央区京橋一丁目17番10号
 名古屋支社 名古屋市中区市場木町390番地
 従業員数 連結 9,895名 単体 3,092名

発行可能株式総数 200,000,000株
 発行済株式の総数 89,048,792株
 (自己株式280,517株含む)
 株主数 59,034名

株式分布の状況(所有者別)



役員

役職	氏名
代表取締役会長	坂元龍三
代表取締役社長	社長執行役員 榎原誠
代表取締役	専務執行役員 渡邊賢
取締役	常務執行役員 竹中茂夫
取締役	常務執行役員 上野の乃均
取締役	執行役員 西山重雄
取締役	(注)1 岡 豪敏
取締役	(注)1 中村 勝史
取締役	(注)1 磯貝 恭史
監査役(常勤)	永田 種昭
監査役(常勤)	飯塚 康弘
監査役(注)2	竹中 史郎
監査役(注)2	杉本 宏之

(注)1 取締役のうち岡 豪敏氏、中村 勝史および磯貝 恭史氏は社外取締役です。
 (注)2 監査役のうち竹中史郎氏および杉本宏之氏は社外監査役です。

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,858	7.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,328	6.00
全国共済農業協同組合連合会	3,000	3.38
日本生命保険相互会社	1,750	1.97
東友	1,691	1.91
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	1,595	1.80
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	1,593	1.79
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	1,562	1.76
東洋紡従業員持株会	1,469	1.66
明治安田生命保険相互会社	1,402	1.58

(注)持株比率は、自己株式(280,517株)を控除して計算しています。

関係会社

	国内	海外	計
連結子会社	27	28	55
持分法適用会社	4	3	7
計	31	31	62

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 (期末の配当金受領株主確定日 3月31日)
 定時株主総会 6月に開催します。
 基準日 定時株主総会の基準日は3月31日です。
 その他必要のあるときは、あらかじめ公告して定めます。
 単元株式数 100株
 当社は、2017年10月1日をもって、単元株式数を
 1,000株から100株に変更しました。
 公告掲載ホームページアドレス <http://www.toyobo.co.jp>
 電子公告による公告ができない場合、日本経済新聞
 に掲載します。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 〒540-8639 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)
 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および
 全国各支店で行っています。

各種手続のお申出先

- 住所変更、名義変更、配当金の受け取り方法のご指定、
 単元未満株式の買取・買増等のお申出先について

区分	お申出先
証券会社でお取引をされている株主さま	株主さまの口座のある証券会社
特別口座(証券会社に口座のない)の株主さま	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 (上記、電話照会先をご参照ください。)

未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(1~99株)をお持ちの方へ

単元未満株式をお持ちの場合、当社に対して、次の請求を行うことにより、
 売却または100株におまとめいただくことができます。ぜひ、以下の制度
 をご利用ください。

買取
制度

単元未満株式の
買取を請求する。

買増
制度

単元株式(100株)に
するため、不足する株数の
株式の売り渡しを請求する。

(例)当社株式65株をお持ちの場合



お手続き方法につきましては、上記のお申出先へお問合せください。